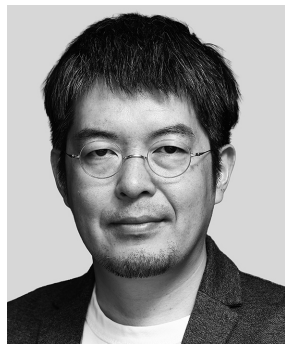


ウクライナ戦争 萎む停戦の機運と今後の見通し

東京大学先端科学技術研究センター准教授

小 泉 悠
こ いずみ ゆう

- *現在の戦況と政治介入の限界
- *墓地の観測からわかる戦況解析
- *歴史的・文化的な結びつきの深さ
- *プーチンが主張する戦争開始理由
- *ウクライナは本当は我々のもの
- *ロシアが掲げる停戦3条件
- *消耗するだけで見えない終わり
- *増える死傷者数と経済徴兵
- *ウクライナ人は簡単に屈服しない



山縣 それでは開会いたします。（拍手）

本日は東京大学先端科学技術研究センターの小泉悠先生をお招きしました。

トランプ大統領が仲介すると言っていたウクライナとロシアの和平交渉はちょっとかすんできている状況です。今日もトランプとプーチンが1時間ぐらい電話で会談したとか、アメリカが軍事的な支援を一時的に停止するとか、いろいろな情報が出ております。一方でロシアはどんどんウクライナで戦線を拡大しているという話もあります。この状況をどう見たらいいのか、非常に難しくなっています。はたしてウクライナが持ちこたえられるのか、ウクライナが敗北して国が減じるのではないか、皆さんもいろいろ思うところがあると思います。

ご存じのように、小泉先生はたいへんにご活躍で、今年すでに2冊の本が出ております。一冊は『小泉悠が護憲派と語り合う安全保障』（かもがわ出版）で、講演と一般の方との対話集という内容で非常にユニークな本となっています。対談集としては、ほかにも日経プレミアシリーズから『2030年の戦争』という新書を出しているらしいです。

本日は祥伝社の方に来ていただき、先生の単独のご著書としては最新刊になる『情報分析力』を販売させていただいております。先生はすでにサインをしていたと思いますが、講演後もお買いいただいたときにサインをしていただけるということです。それから、先生は一般社団法人DEEP DIVEをおつくりになっ